（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

２０２２年度（令和　４　年度）学校評価自己評価表

城北中学校区	校番５６	福山市立久松台小学校

最終更新日	2023年（令和５年）１月２７日

Ⅰ　福山市

ミッション　　福山に愛着と誇りを持ち，変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　　「福山１００ＮＥＮ教育」の基本理念のもと，各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し，日々の授業を中心として評価・改善を進めながら，子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校校区で連携を深め，共通の取組で成果をあげている。各校の目標が達成できていないものについては取組の進捗状況を細かく把握し課題克服に向けて PDCA サイクルに則り実践する。

児童生徒の現状

全国学力調査の結果，校区小学校・中学校ともに福山市の平均正答率を上回った。また，長欠未然防止に向けて，現状や対策を話し合い，実践した。さらに，メディアウィークを設定することで，メディアとの付き合い方や利用の仕方について効果があった。

育成する力（21世紀型“スキル&倫理観”）	知識・技能　思考力・判断力・表現力　主体的に学ぶ力　他者とかかわる力　社会貢献力　自己形成力
めざす子ども像（義務教育修了時の姿）	自ら考え，判断し，行動できる自律した児童・生徒
中学校区として統一した取組等	・校区合同研修における，合意形成を意識した授業研究及び教科等部会の取組 ・ＩＣＴを活用した個別最適化した授業実践及び協議・交流の取組 ・家庭での効率的な学習計画の立て方・メディアとの付き合い方への取組 ・合同行事や乗り入れ授業，「総合的な学習の時間」交流会の取組

Ⅲ　自　校

ミッション

未来を切り拓く「生きる力」を育成する
「すべては子どもたちのために」を基底に据え，学校・保護者・地域が連携し，「この学校へ来てよかった」「この学校へ来させてよかった」といわれる学校に

学校教育目標

自ら考え　正しく判断し　行動する　感性豊かな子

現　状

＜児童生徒＞
【成果】
・全国学力・学習状況調査の「国語・算数」では全国平均・県平均を上回り，基礎的・基本的な学力はおおむね定着している。
【課題】
・複数の資料を関連付けて説明する力が弱い。
・自分から課題意識をもって，学習する児童の割合が低い。
＜授業＞
【成果】
・対話的な活動が増えている。児童間で活発に，意見を述べたり，質問をしたりしている。
【課題】
・対話的な活動は行っているが，児童の多様な考えを授業に生かし切れていない。
・児童が対話を通して学びを深めきれない時に，教師が引っ張りすぎてしまう。

育成する力（21世紀型“スキル&倫理観”	思考力・判断力・表現力 思	他者とかかわる力 他	自己効力感 自
めざす子ども像	自ら課題を見つけ，見通しをもって，問題を解決することができる。	友達とつながる良さを感じ，相手の意図を汲みながら聴いたり，自分の考えを伝えたりすることができる。	自分の良さを認め，難しいことでも失敗を恐れないで挑戦しようとしている。

研究	テーマ	「本当にわかる」学びとは　～学びの姿を通して～
	内容等	本当の意味での「わかる」学びに向けて，子どもの姿をもとにして教員一人一人が年間を通して取り組むテーマを立て，研究・実践を重ねる。
めざす授業の姿		子どもたち自身が協働して「本当にわかる」をつくりだす授業。 思　児童が自由に思考し，練り合える授業。 他　合意形成や相互理解の場面から，他者との対話が生まれる授業。 自　課題に対して自己決定や自己選択することができ，子ども達が進んで挑戦できる授業。

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立久松台小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	ﾌﾟﾛｾｽ評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	ﾌﾟﾛｾｽ評価	達成評価	総合評価	改善方策
３	自ら考え学ぶ児童（主体性）の育成	★	継続	主体的に授業に取り組む児童の育成	児童が「やってみたい」と感じるよう，単元づくりを充実させる。学びをつなぐ取組をする。	学びアンケートで学びが面白いと答える児童を90%以上にする。	□学びアンケートで「学びが面白い」に対して肯定的な回答をした児童は91%であった。児童の思考に沿った授業づくりができてきている。	４	４	主体的に学びを切り拓くには，児童の対話する力が欠かせない。それを伸ばすために，授業だけでなく毎週水曜日の久松台タイムに言語力を育む学習を行う。	□学びアンケートで「学びが面白い」に対して肯定的な回答をした児童は93%であった。 ◎各教員が自分のテーマに基づいたり，児童の姿を丁寧に見取ったりして，授業づくりを工夫することができている。	４	４	４	来年度もことばタイムを継続し，言語力を育む。また，授業においても，主体的な学びを切り拓くための，児童の対話する力を高める。
			継続	相手意識をもって人と関わる児童の育成	全員が安心して集団生活を送ることができる環境を整えていく。	QUアンケートで，学級生活満足群に属する児童を70%以上にする。	□QU アンケートで学級生活満足群に属する児童は 74％であった。12 学級中 9 学級で 70%以上を達成することができた。学級づくりや個別支援の研修を実施できた。	３	３	学年・学級を越えた情報共有や連携を今後も継続する。学級づくりや個別支援についての研修を適宜実施し，児童の居場所づくりに努める。11 月に 2 度目の QU アンケートを実施予定である。	□QU アンケートで学級生活満足群に属する児童は 76%であった。12 学級中 8 学級で 70%以上を達成することができた。 ◎児童理解，学級経営に関する研修を実施することができた。また，縦割り掃除を実施することによって学年を越えた交流の機会を設定することができた。	４	４	４	来年度も QU アンケートを実施し，丁寧な児童理解ができるようにする。また，学級経営や児童理解についての研修を継続し，教職員間で高め合えるようにする。児童について学年を越えて情報共有し，早期に組織的に対応できるように，ケース会議等を適宜設定していく。
			継続	体を動かすことが楽しいと思える児童の育成	たてわりレクや体育的行事を充実させ，楽しく運動ができる機会を作る。家庭学習の体力づくりを自分で選択して行い，運動や自分の体力に関心をもてるものにする。	運動アンケートで運動が好きと答える児童を95%以上にする。 運動の習慣が身に付いている児童を70%以上にする。	□運動アンケートで運動が好きと答える児童が92%，運動の習慣が身に付いている児童が 73%だった。	３	３	授業では，準備運動としてサーキット運動に取り組む。また，運動遊びの紹介を行い，児童が進んで楽しみながら運動に取り組める環境を整える。	□運動アンケートで運動が好きと答える児童が 91.7%，運動の習慣が身に付いている児童が 76.6%だった。 ◎体力づくりの項目やサーキット運動の種目を選択制にすることで，自己の体力に向き合って考えたり，運動の楽しさに気づいたりする機会をつくることができた。	３	４	４	来年度は児童の体力の実態に応じたサーキット運動や家庭学習を設定し取り組んでいく。また，運動が好きな児童を増やすために，体育の授業改善，研修をしていく。

３	教職員の資質・能力の向上	★	継続	子どもたちが学びのつながりを実感できる授業力の向上	子ども達の「分かる学び」に向け，教員一人一人が自分の課題意識に基づいたテーマを立てて授業改善に取り組む。その内容を教員間で交流し，実践に生かせるようにする。	教職員アンケート「日々の授業を改善していっている」に対する肯定的回答を 90%以上にする。	□「日々の授業を改善していっている」に対して肯定的な回答をした教職員は100%であった。教職員間で取り組みの交流を４回行い，授業改善を促進できた。	4	5	２学期も４回以上，取組の交流を行う。自分自身の取組を振り返ったり，他者の取組を聞いたりして，自分の実践に取り入れるようにする。	□「日々の授業を改善していっている」に対して肯定的な回答をした教職員は100%であった。◎取組や，研究授業を今後にどう生かすかを交流することで，授業改善を促進できている。	4	4	4	来年度も，校区の「自律」というテーマに向かって各々が授業改善に取り組み，校区研と校内研を展開する。児童の実態に自分の取組がどうつながったかを振り返れる研修を仕組み，授業改善を促進する。
３	地域に貢献する学校		継続	持続可能な社会について探究し，地域に還元する児童の育成（SDGｓ）	総合的な学習の時間に，持続可能な社会づくりについて学び，実践をする。	児童アンケート「持続可能な社会づくりのために自分達ができる事に取り組んでいる」に対する肯定的回答を80%以上にする。	□「持続可能な社会づくりのために自分達ができる事に取り組んでいる」に対する肯定的回答は 83％であった。一昨年度からの継続した取組が，児童の SDGｓに対する意識を高めている。	4	4	学年を越えて活動内容の交流を行う。互いの活動のよさを取り入れ，SDGｓについて，相手意識をもった発信を行い，SDGｓの当事者としての意識をより高める。	□「持続可能な社会づくりのために自分達ができる事に取り組んでいる」に対する肯定的回答は86%であった。◎他学年や他校に発信することを通して，児童の SDGs への当事者意識がより高まった。	4	4	4	来年度も，児童が発見した課題を起点として授業を展開する。その中で，SDGsの視点と関連づけながら学習を展開し，自分の生活等に学びを還元していく。

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった。